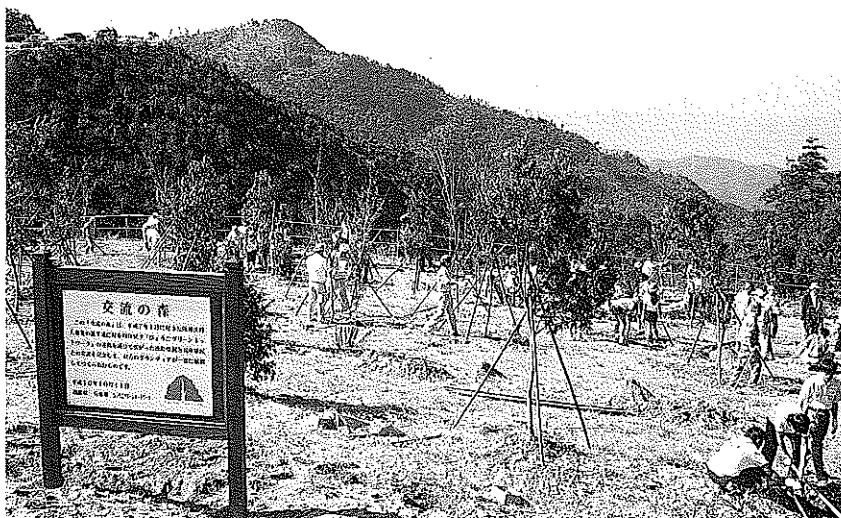


# 林業とくしま



所在地:徳島県徳島市入田町

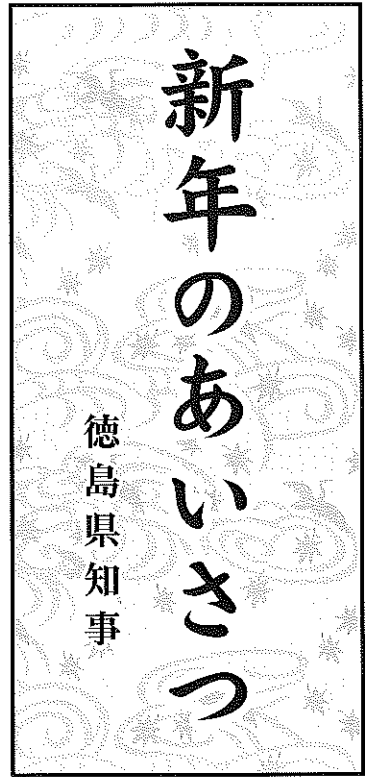


所在地:兵庫県宝塚市

阪神淡路大震災の被災地の緑化支援で  
広がった兵庫県との緑と心の交流の輪

昨年10月11日の兵庫県のボランティアの人達を迎えて実施した「交流の森」の造成  
(写真上段)  
11月22日に徳島のボランティアが育てた苗木を被災地の住民と一緒に植栽した  
「ドングリふれあいの森」  
(写真下段)

No. **247**  
1999.1



# 新年のあいさつ

徳島県知事

皆さん、明けましておめでと  
うございます。

希望に満ちた平成十一年の年頭  
に当たり、皆様方のご健康とご多  
幸を心からお慶び申し上げます。

今年は、干支でいうと「うさぎ」  
に当たります。

うさぎは大きく飛躍する動物で  
ございます。

新年を迎え、本県も、輝かしい未  
来に向かって、うさぎのように大  
きく飛躍したいと思えます。

また、今年のうちうさぎ年は、正確に  
は「卯」ということで、十干十二  
支の「己」と「卯」が組み合わさった  
のが今年であります。

「己」は、混乱の中を筋を通して  
規律してゆく、あるいは、筋道を  
はつきりと通す、ということを表

し、「卯」は、茂という字に通じてお  
り、繁栄を意味しております。

とすれば、これらが組み合わ  
さった己卯は、枯葉をきちつと剪  
定し、筋道をはつきりと通すこと  
ができれば繁栄につながる、とい  
う意味になるかと思えます。

さて、本県について考えてみま  
すと、昨年の神戸・鳴門ルートの中  
線開通により、既に架橋新時代が  
始まっております。

本年は、架橋の効果を更に生か  
すべく交通ネットワークの形成等、  
一層の社会基盤整備が急がれる年  
でございます。

徳島自動車道が、今年度内に井  
川・池田まで開通し、来年度中には  
川之江までの全線が開通いたしま  
す。

この徳島を巡る大きな高速交通  
ネットワークは、徳島の交流拠点  
性を飛躍的に高めるとともに、県  
内各地にも架橋の効果をもたらさ  
す。

また、二十一世紀を目前に控え  
る中で、少子・高齢化や環境問題、  
景気の低迷等への的確な対応が急  
がれているところでもございます。

一方、森林・林業・木材産業につ  
きましても、森林の公益的機能の  
維持増進・木材の安定供給と需要  
の拡大及び担い手の育成等、多く  
の課題を抱えております。

まさに、平成十一年は、本県が二  
十一世紀の繁栄に向け、しつかり  
と道筋を立て、様々な課題を乗り  
越えなくてはならない年でありま  
す。

新しい年の年頭に当たり、私は、  
「いのち輝く世界の郷とくしま」を  
目指して、全力で取り組んで参る  
決意でありますので、なお一層の  
ご支援・ご協力を賜りますよう、よ  
ろしくお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、良  
い年となりますよう心からお祈り  
いたします

## も く じ (林業とくしま 247号)

やまびこ(新年のあいさつ) .....	2
やまびこ(県境面から見た林業活性化への期待).....	3
(活力ある林研グループ活動に期待)	
林政の窓(林業事業の現状と今後について) .....	4
特集(がんばる女性がいっぱい! 女性林業グループの紹介) ..	6
森林とともに(山ではつらつと生きる) .....	8
(山はいいですね).....	9

技術情報(キハダ優良品種の選抜と増殖について) ..	10
阿波だぬき(困魂の世代) .....	12
東西南北.....	13
お知らせ.....	14
原木市況.....	18

### 環境面から見た 林業活性化への期待

徳島県林業改良普及協会会長

山脇隆志

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、林業多難の祈り、それぞれ新しい決意で新春を迎えられた事と存じます。

本年も昨年に続く不況の下、林業にとって更に苦しい時期が続くものと思われます。

一方、森林資源は、人工林を中心に年々成長を続け、国産材の供給力は飛躍的に増大することは明かでありますが、林業採算性の悪化や、林業従事者の減少・高齢化、非木造建材の増大などかつてないほど厳しい状況にあり、残念ながら、国産材時代はまだ見えて参りません。

しかしながら将来を展望すると環境面から考えても国産材が立ち上がるべき日が近いと思われてなりません。

ご承知のとおり、森林は、地球サミット以降人類にとつてかけがえのない環境資源との認識が高まっております。

特に、平成9年、京都で開催された地球温暖化国際会議では森林の二酸化炭素を吸収・固定する機能が高く評価され、また、平成10年に制定された政府の「地球温暖化推進大綱」では、森林の整備と木材利用の増進などが二酸化炭素吸収源対策として明確に位置づけられました。

このことから、森林の果たす貢献も重要なものとして認識がますます高まるものと期待としていられるところで、政府の林業政策の企画的な転換を望むと共に、我々も、また、苦しい中更なる自助努力を積み重ねて行かなければならないと考えている次第であります。

本年も、景気一般としては余り明るい材料が見出せませんが、幸い資源小国の我が国が誇れる立派な森林が着実に形成され、蓄積量も著増しつつあります。

将来を見渡し、林業活性化へ向けて本年も会員の皆さんと一緒を考えて参りたいと思っておりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、会員皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

### 活力ある林研グループ 活動に期待

徳島県林業研究グループ  
連絡協議会会長

谷奥歳信

新年明けましておめでとうございます。

関係各位におかれましては、ご健勝で一九九九年の新春を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、平成七年度から三ヶ年にわたつて取り組んでまいりました、「林研グループいきいき活動体質強化事業」では、各グループがそれぞれの地域において活発に取り組んでいただきました。平成九年度は、「阿波池田やまびこ会」が中国、四国ブロック代表として、全国林業グループコンクールに出場し、林野庁長官賞を受賞され、また平成十年度は上勝町の「彩女会」が同じく全国コンクールの出場が決まるなど、女性グループの目ざましい活躍により、大きな成果を上げる事ができました。引き続き十年度からは、関係当局の御努力によ

り、より充実した取り組みを推進すべく「はつらつ林研活動促進事業」として向こう三ヶ年で事業を実施いたしております。

昨今の材価の低迷は我々林業関係者の活力を大きく低下させています。但し、県当局の格段のご支援により全国トップレベルの林研グループ活動ができております。心より敬意と感謝を申し上げます。昨年は「架橋新時代」の幕開けで、幾多のイベントが開催され本格的な交流の時代への扉が開かれました。園藤知事の目指す「いのち輝く世界の郷とくしま」の実現には林業の振興と森林の整備に積極的に取り組む豊かな自然環境を維持増進させる事が大切であると思っております。

最後になりましたが、各林研グループの発展と会員の皆様のご健勝を御祈念して御挨拶と致します。

# 林道事業の現状と

## 今後について

はじめに

先般林業広報誌から伸びゆく林道と施策の概要という題材をいただいた訳ですが、公共事業、なかでも林道を取り巻く現状は、平成九年度からの路線数管理・コスト削減、また平成十年度から事業再評価等大変厳しく、更にはマスコミの論調もどちらかといえば批判的であり、林道担当者としてジレンマを感じる今日この頃で、いかにしたら予算の確保がはかれるか、知恵を絞らなければならない時代に突入したと感じています。

(1)近年の国費内示額(当初)の推移

別表1を見ていただくとわかるように、平成五年度から平成九年度までは、俗にいう肩上がりで、平成十年度にかなりの右肩下がりになった訳で、これは皆様もご存じ

のように国家財政の健全化を目指すため制定された財政構造改革法の影響を受けたためです。

しかし、その後一段と景気の低迷による倒産等が相次ぎ、特別減税や追加の公共事業を盛り込んだ大型補正予算が六月十八日国会で承認され、林道事業についても国費ベースで対当初比約二五%の予算を頂いた訳でございます。

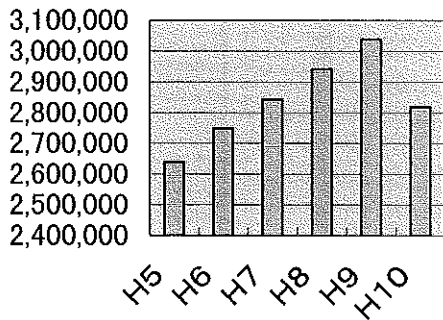
この一次補正後も、貸し渋り等のため景気が回復せず、金融を安定させるため、二次補正として金融安定化対策が実施され、更に十一月十六日に政府が決定した緊急経済対策により林道事業についても対当初比三〇%強の補正予算がつく見込みです。

(2)林道事業の役割

林道事業は、「森林法」「林業基本法」の二法に基づいて実施してお

別表 1 当初内示額推移表 単位:(千円)

年度	県(国費)	対前年比
H5	2,638,200	
H6	2,748,700	1.041885
H7	2,842,940	1.034285
H8	2,941,500	1.034668
H9	3,038,500	1.032976
H10	2,818,700	0.927662



り、効率的な林業経営の展開や森林の適正な維持管理、また森林の総合利用の推進、山村の生活環境の整備、地域産業の振興等を目的とした、山村地域にとっては不可欠な事業です。

しかしながら、これらは林業生産活動の場であり、森林を守り支えてきた山村地域は、基幹産業である農林業の不振、道路通信施設、生活環境等の社会資本の整備の立ち遅れ、過疎化、高齢化の進行によって、経済活動の停滞と活力低下は著しく、森林の維持管理に支障を来しています。

この現状を少しでも打開するため、林道事業の促進をはかっていく必要があると考えています。

(3)林道事業の概要

事業内容につきましては、大別すると国庫補助事業と県単独事業からなり、更に国庫補助事業も公共事業と非公共事業に分類することができます。

平成九年度までは国庫事業は全て公共事業でしたが、平成十年度から開設・改良・舗装が実

# 窓の政林

施できる非公共事業の間伐等森林整備促進緊急整備事業が創設され、予算の五％程度を占めています。

公共事業を見てもみすと、林道の開設・改良の整備拡充を図る森林保全整備事業と、開設により峰越間の既存道路を連絡したり、林道の機能向上を図るため舗装を実施する農免林道整備事業と、林業生産基盤の整備と山村の生活環境整備事業から成り立っています。

県単独事業を見ると、四五％補助で開設・改良・舗装が実施できる通常の事業と、平成五年度から林野庁と自治省が協力して、集落と集落とを結ぶ等地域が緊急に対応しなければならぬ林道の整備を実施する、起債事業のふると林道緊急整備事業から成り立っています。

## (4) 林道事業の現状と課題

量的な面を見てみますと林業基本法第十条に基づき「森林資源に関する基本計画」において、森林資源の継続的な循環利用を図りながら、多様な森林整備を推進していくため、平成四六年度末までの整備目標が定められています。が、本

別表 2 林道網整備計画  
計画期間 (平成9～46年)

単位：延長Km、密度m/ha

		整備目標			現況			備考
		林道	公道等	計	林道	公道等	計	
徳島県	延長	3,200	2,697	5,897	1,513	2,700	4,213	
	密度	10.9	9.1	20.0	5.1	9.2	14.3	
全国	延長	182,000	170,808	352,808	80,736	170,808	251,544	
	密度	10.2	9.9	20.0	4.7	9.8	14.5	

注：現況数値の徳島県は平成9年度末、全国は平成8年度末。

県においては、別表2でわかるように、林道整備目標三、二〇〇kmに對して、平成九年度末現在一、五一三kmしか(達成率四七%)実施できていないのが現状です。

今後この整備目標を達成させるためには、年間四六km開設しなければならぬが、現在年間約三五kmしか開設できていない状況で、地形・地質が悪い本県において、いかにして達成に向け知恵を働かせていくか正念場をむかえています。

一方、質的な面を見てみますと、従来は利用区域の森林面積や林業効果指数(区域内の森林構成から試算)を満たせば事業採択になった訳ですが、平成九年度からは、費用対効果が一以上なければ採択ならなくなり、また平成十年度から、林道事業においては事業採択後五年を経過した事業について、事業の再評価をしなければならなくなりました。

このような時代背景のもと、量的な面・質的な面をクリアしていくためには、山林所有者の皆様、更には林業にかかわられておられる皆様方の積極的な支援(用地の

協力・既設林道を利用した保育・間伐事業の取組等)が必要だと思います。

(5) おわりに  
今後財政面は、一段と厳しさが増していくことが予想されますが、道のない所には林業は成立しないと言われますように、林道事業を推進することが、林業の活性化については山村振興になるわけですので、今後の林道事業の発展にむけて皆様方の暖かい御支援をお願いします。

(参考)

1 ふるさと林道緊急整備事業 実績 (計画期間 H5～H9)

単位：百万円

	平成5年度		平成6年度		平成7年度		平成8年度		平成9年度	
	路線	事業費	路線	事業費	路線	事業費	路線	事業費	路線	事業費
県営		0	1	100	1	150	4	500	6	1,000
市町村営	1	70	1	60	5	300	18	842	28	1,462
計	1	70	2	160	6	450	22	1,342	34	2,462

森林整備課 林道係

# がんばる女性がいっぱい!! 女性林業グループの紹介

一九九八年も過ぎ去り、新しい年一九九九年を迎えて気分も新たにしておられることと思います。

さて、長引く景気の低迷により木材不況が続いています。

こうしたことから、農山村地域は、担い手不足、経営の悪化等による農林業の低迷や地域社会の衰退等が懸念されています。

こうした中、県内の各地で、女性としての感性を最大限に発揮し、各地域にあった活動を展開し、明るく・楽しく・活き活きとした農山村を築くために頑張っている八つの女性林業グループがあります。

新しい年の始めにあたり、各グループの活動状況や、各会長さんより新しい年の豊富についてコメントを頂いたので紹介します。

なお、紙面の都合上、一部省略しましたことをおわびします。

## 相生町

### 「相生やまびこ会」

会長 植北ちず子  
会員 ㊦十二名

#### 一、主な活動状況

- 休耕田を利用し大豆の栽培
- 農業祭への参加(手作り草餅・柿餅の販売)

#### 二、抱負とコメント

各種研修会や行事に積極的に参加する。また、高齢者宅の畑仕事や家の回りの草刈りの手伝いを検討し、今、地球全体が洪水や渇水で苦しめられている。森林に対して、人間が都合の良いように扱った罪を受けているのかも!!



間が都合の良いように扱った罪を受けているのかも!!  
ガンバリます。

## 上勝町

### 「彩女会」

会長 中山多与子  
会員 ㊦一〇名

#### 一、主な活動状況

- 押し花製品・木工クラフト製品等の製作・展示・販売・講習
- 都市住民との交流活動
- 各種イベントへの参加・協力

#### 二、抱負とコメント

今、物の豊かさから心の豊かさを求める時代が変わっている。

#### 上勝からの風

都市からの風をお互いが受けとめられる交流の拠点として「森の風」を勝浦町に新たにオープンした。成功に向け頑張る。



## 池田町

### 「阿波池田やまびこ会」

会長 西森利子  
会員 ㊦十六名 ㊦二名

#### 一、主な活動状況

- 佐野しいたけ祭りの開催
- やまびこ健康麵(オリジナルのしいたけ入りうどん)の販売

- 贈答用のゆうパック(乾しいたけの詰合せセット)の販売
- しいたけ植菌体験(小学生等)の実施と交流活動の拡大

#### 二、抱負とコメント

「森づくり・地域づくりを考える時」女性が元気で生き生きと輝き、多彩な女性活動パワーが少しずつ流れを生み出し、地域が変わり、地域に活気が湧く……

いつも前向きに、明日に向かって元気を吹き起こそう。

#### 今年の抱負

- 特産物の開発と商品化
- 地域振興計画作成への参画
- 特産品の販売拠点として、国道沿いに販売施設の設置を検討していく



## 上勝町

### 「上勝なでしこ愛林会」

会長 篠崎佐千代  
会員 ㊦七名

## 一、主な活動状況

● 森林ボランティアの受入れ及び実行指導

● 「おばあちゃんの知恵ブック」の作成

## 二、抱負とコメント

阪神淡路大震災の時、食べ物がなくたってしまいました。山村に住む私たちは、安全地域と錯覚して災害に対する備えがありません。もし私たちの所で災害が起きたらどうなるでしょうか……

野山に食べられる物がいっぱいありながら、食べ方を知らないではあまりにも情けないことです。



思っています。

池田町

## 「せせらぎ倶楽部」

会長 大西知子  
会員 ㊦九名 ㊦四名

一、主な活動状況

- 村おこしイベント(ジャズフェスタ等)の開催
- 地域交流活動・親睦

二、抱負とコメント

グループ結成四年目、より充実した活動をしたいと考えています。特に、春に計画しているイベントを地元密着行事と考え、みんなで成功させること、又、そのイベントで、地元産物を使ったバザー等を行い、林業グループのみなさんに披露したいと考えています。又、今年も研修会等に積極的に参加し、活動に役立てたい。

## 六吹町

## 「古宮林業推進会婦人部」

会長 谷典博子  
会員 ㊦二十名 ㊦九五名

## 一、主な活動状況

- 農林産物直売フェアへの参加
- 各地域との交流活動
- 木の利用方法の検討及び学習

## 二、抱負とコメント

結成七年目を迎え、今、次の世代の子供達に何を残してやれるのか考えた時……ふるさとの森林資源と地球に優しい森林の育成、そのために、除間伐等の保育と林道等の基盤整備に力を入れてもらいたいと思います。

次の子供達のために、ここで私たちは力いっぱい頑張ろうと思っています。



## 三好町

## 「三好町あげびの会」

会長 加藤伴子  
会員 ㊦七名

## 一、主な活動状況

- かずら細工の製作と販売
- 各種イベントの参加及び支援

## 二、抱負とコメント

四国縦貫道の開通に備え、サイブスエリアに、全国に誇れる三好町の特産品を作ろうと、ガーデニング、草木染、プラントー等に挑戦し、試行錯誤の真最中です。

会員一同、アイディアとファイ

トは十二分に持ち合わせ、視野を広くもって頑張っていこうと思っています。

工房を作るのが今年の夢



## 木屋平村

## 「やまぶき会」

会長 天田テル  
会員 ㊦二五名

## 一、主な活動状況

- 森林ボランティアのサポート
- お年寄りの方への弁当の配達

## 二、抱負とコメント

発足して八年目、今年も女性の視点で地域の活性化に結びつく活動を行っています。

県下の女性

林研の仲間と力いっぱい頑張りたいです。



# 山ではつらつと 生きる

犬喰町 井花佐智子さん



「私よりつばな人は、他にもいますよ。そんな大したことをやっているわけでもないし……」  
お昼のお弁当を食べながら井花佐智子さんは、私のインタビューとても親切に答えていただきました。

井花さんは現在五九才、四〇才までは他県で専業主婦だったそうですが、犬喰町にこられて初めて、ご主人といっしょに山仕事をはじめられたそうです。最初に、なにもわからず連れられていった現場が歩いて一時間四五分もかかる山での下刈り作業だったそうです。急斜面での仕事は体力的にもたいへんだし、雨が降ってきて、「よう切れるわ!」とかいって仕事を続ける山の常識にも戸惑ったそうです。

こんな山仕事の最初は、それはもう辛かった。山で泣いたこともあったそうです。

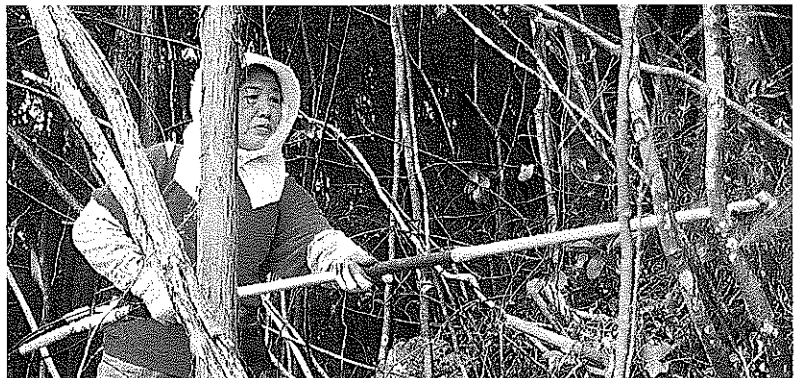
「山仕事で楽しかったことはなんでしょうか?」という問いに、「気が楽だし、対人関係が良かったかな?」「山で働く人は、人の悪口を

言ったりする人もなく、自然の中で気持ちよく仕事ができるし、仕事のやり方も親切に教えてくれた。みんなでワイワイと楽しく仕事ができる雰囲気も良かった。回りの人のおかげです。」そして、「家でおじいちゃんに怒られたことも、山にきたら忘れていたし……」と明るく笑って答えていただきました。

反対に山仕事で困ったことは? と言う問いには、去年、下刈り作業中、ししばち「の巣をカマでまつぶたつに切り、体半分を刺されぶらぶらの状態で病院に行ったそうです。お医者さんには、免疫の弱い人だったら命はなかったと言われるくらい、多くの箇所を刺されたそうです。そして、私が見たいへんでしたね?どのくらい病院に入院されたんですか?と聞くと、「次の日は仕事にいったよ。その日だけ……」。

最後に、これから山で働く女性へのアドバイスをお願いします。

「やる気と忍耐かな?やる気さえあれば男の人に負けない収入があるし、体力的にしんどい仕事だから辛抱強さが必要です。」「しかし、私がこれまでやってこれたの



は、山で働く多くの人に支えられてやってこれたんだと思います。」  
写真は、除伐作業中の井花さんです。男性の人に負けない仕事をされるという井花さんを感じた瞬間でした。

日和佐農林事務所 後藤 誠





山のことは何も知らず関心も無かった女性が、仕事を通じて山のサポーターになってくれた例として、平田明美さんを取材しました。彼女は、平成三年から阿波麻植森林組合の主事補として勤めています。

# 山はいいですね！

—仕事を通じて山に関心がわく—

阿波町 平田明美さん

ます。仕事は主に総務と経理を担当していますが、時には下刈や間伐の現場に出て、測量や検査の手伝いをすることもあるそうです。

さて、取材当日に森林組合の事務所でカメラを向けると、「えー？！顔が写つたらいやー。」と言われてしまいました。写真を撮るのに一苦労したのですが、周囲の勧めもあつて、無事ファインダーに収まってもらいました。人前に出せないようなものならいざ知らず、出し惜しみするのは勿体ないと言うべきであります。

森林組合に勤めるようになったきっかけを聞いてみると、家は兼業農家で、山とは何の関係も無かったのですが、たまたま林務課の臨時職員として勤務していたことから、林務課からの推薦により就職



したそうです。

今の仕事はとても気に入っており、特につらいことや不満なことは無いと言ふことで、たまたま現場に出られるのも気分転換になって楽しいということでした。

役員からの評判もとても良く、紹介した当時の林務課長も人を見る目があつたと言ふべきでしょうか。

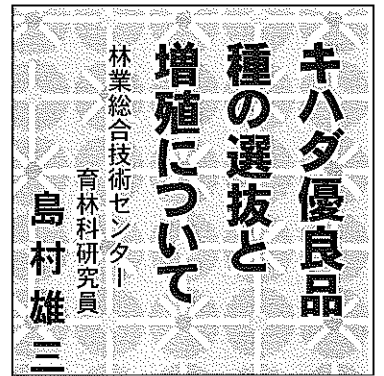
今後のことを聞いてみると、もちろん仕事はずっと続けて事務も現場もこなし、家庭とも両立させるキャリアウーマンを目指していくし、仕事だけでなく、ボランティア

活動なども通じて山の応援をしていきたいと明るく語ってくれました。最後に、山の皆さんへ一言とマイクを向けると

「木材価格が安くて林業の経営は大変だと思いますが、人が生活する上で森林は必要ですから、もっと見直されて値打ちが出ると信じています。21世紀に向かって希望を持って頑張りましょう。」ということでした。

川島農林事務所林務課 高橋 幸次





平成二年度から実施した地域特性品種育成事業(国の補助事業、平成九年度)において、県内におけるキハダ優良木二品種の選抜を行い、これら優良品種の増殖を試みましたのでその結果を報告します。

一 キハダ優良品種の選抜

キハダは内樹皮に黄色アルカロイドのベルベリン(黄蘗)などの抽出成分があり、古くから染料として用いられてきました。また、薬用としての利用も多く、健胃整腸、下痢止めなどにその粉末が服用されています。さらに、北海道では樹皮を屋根ふき、壁板に用いています。が、腐朽しないとも言われていません。

一方、材としても、キハダ特有の

材色や木理の模様を利用して家具、器具材、床柱などに用いられています。

これらの利用面からもキハダは特用樹としての評価が高く、県西部地域では一斉林あるいは複層林の下層木として比較的多く植栽されていることから、本事業において優良品種の選抜と増殖が実施されました。選抜にあたっては、美馬・三好等の県西部地域に点在す

表一-1 選抜されたキハダ優良品種の概要

クローン名	樹高(m)	胸高直径(cm)	樹 齢	選抜年度	
木屋平	1号	16.0	28.0	20	H2
	2号	14.5	24.0	20	H2
	3号	15.0	26.0	20	H2
	4号	22.5	33.0	40~50	H3
	5号	23.6	35.5	40~45	H3
	6号	29.4	31.5	40~50	H3
一 宇	1号	9.8	18.0	15	H2
	2号	9.7	18.0	15	H2
	3号	13.3	20.0	22	H3
	4号	12.3	22.0	22	H3
東榎谷	1号	9.7	16.0	15~20	H3
	2号	11.2	18.0	15~20	H3
	3号	10.9	14.0	15~20	H3
	4号	9.8	12.0	15~20	H3
	5号	11.4	13.0	15~20	H3
	6号	13.0	16.0	15~20	H3
池 田	1号	12.0	17.0	35~40	H2
	2号	18.0	28.0	35~40	H2
	3号	16.0	22.0	35~40	H2
	4号	17.0	26.0	35~40	H2
	5号	15.0	18.0	35~40	H2

るキハダ天然木や植林木を中心に優良品種を選抜しました。

選抜された二一の優良品種の概要を表一-1に示します。選抜基準としては、内樹皮に含まれている

ベルベリン量の多いこと、周りの林木に比べて成長が良いこと、形質が優れていること等を条件として選抜されています。

増殖は平成五年度から行い、挿し木と接ぎ木による二方法をいたしましたのでその概要を次に説明します。

二 挿し木による増殖試験

親木からの採穂は平成六年の三月中旬から下旬にかけて行いまし

た。残念ながら、親木の樹高が高く枝を採取することが困難な個体もあり、すべての品種からは採穂することはできませんでした。採取した枝は挿し木用に穂づくりを行い、二四時間発根促進剤に浸漬した後、ミスト室に挿し付けました。一般にキハダは、挿し木

による増殖は困難とされており、発根促進剤を用いた今回の試験でも発根活着したものはみられませんでした。

三 接ぎ木による増殖試験

親木からの接ぎ木は平成六年度から実施しました。接ぎ穂の採取は、挿し木と同様三月中旬頃すなわち新芽が開く前に行い、接ぎ木を実施するまで低温貯蔵します。一方、台木に用いるキハダの一年生実生苗は、接ぎ木の実施一ヶ月前には接ぎ木床に植栽しておきます。三月の下旬以降台木の根が水分を吸い上げるようになる頃接ぎ木を行います。

接ぎ方の種類ですが、今回用いた方法は「割り接ぎ」という一般的な方法です。接ぎ木の済んだものから順次ビニール袋を被せ、床全体を寒冷紗で日覆いします。接ぎ木後の管理としては、台木の芽かきを常時行うとともに、接ぎ穂から新葉が展開する段階でビニール袋の一部を切り取り、その後、葉の展開状況を見計らいながら最終的には袋全体を取り去ります。寒冷紗はお盆明け以降に取り去ります。

平成六、七、九年度に行った品種ごとの接ぎ木活着率を表一-2に示します。年により接ぎ木を行った品種や本数が違ったこと、また、親木からの採取部位も違うことから品種固有の活着率は明らかではあ

# 技術情報

や低い値でした。  
また、平成六年度に接ぎ木により活着した八八個体(以下、次代木という)を光環境の違う二つの場所、すなわち、当センターの構内(

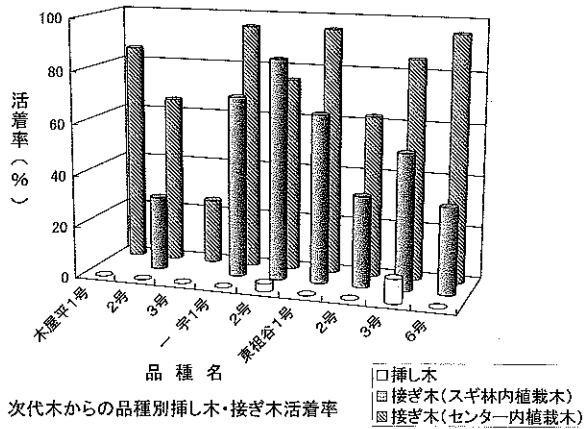
五 キハダの育成について  
当センターでは、キハダの一斉

林及びスギ・キハダ二段林の固定調査地を設定し、成長状況や立地環境を定期的に調査しています。県西部では、スギ林下にキハダを植栽する二段林施策を実施している林分が多くみられますが、キハダは陽樹であり耐陰性が弱いこと、適潤で通気の良い肥沃地を好むことから、キハダの良好な成長のために上層木の間伐・枝払い等による光環境条件の調整を適時行う必

表-2 親木からの年度別接ぎ木本数と活着率

クローン名	平成6年度				平成7年度				平成9年度				合計			
	接木本数	活木数	活着率(%)	着数	接木本数	活木数	活着率(%)	着数	接木本数	活木数	活着率(%)	着数	接木本数	活木数	活着率(%)	着数
木屋平1号	18	3	16.7		15	2	13.3		6	1	16.7		39	6	15.4	
2号	73	7	9.6		25	4	16.0		22	0	0.0		120	11	9.2	
3号	28	2	7.1		6	0	0.0						34	2	5.9	
小計	119	12	10.1		46	6	13.0		28	1	3.6		193	19	9.8	
一字1号	31	9	29.0										31	9	29.0	
2号	35	14	40.0										35	14	40.0	
3号					70	45	64.3						70	45	64.3	
4号					98	50	51.0						98	50	51.0	
小計	66	23	34.8		168	95	56.5						234	118	50.4	
東祖谷1号	20	9	45.0						20	9	45.0		40	18	45.0	
2号	26	15	57.7						20	5	25.0		46	20	43.5	
3号	37	23	62.2										37	23	62.2	
5号	9	1	11.1										9	1	11.1	
6号	10	5	50.0						20	0	0.0		30	5	16.7	
小計	102	53	52.0						60	14	23.3		162	67	41.4	
池田2号					16	5	31.3						16	5	31.3	
3号					39	16	41.0						39	16	41.0	
小計					55	21	38.2						55	21	38.2	
合計	287	88	30.7		269	122	45.4		88	15	17.0		644	225	34.9	

相対照度一〇〇%)、和食試験林のスギ林の下層(相対照度一七%)にそれぞれ植栽しました。平成九年度には、これら次代木から穂木を採取し、挿し木と接ぎ木の増殖を試みしたので、次にその結果を説明します。  
**四 次代木からの増殖試験**  
挿し木・接ぎ木による増殖試験結果を図-1に示します。挿し木による活着率は、親木から直接採穂した挿し木活着率とかわらず低い結果でしたが、接ぎ木による活着率は、親木から直接採穂した場合の活着率を大きく上回る結果となりました。さらにその活着率は、次代木の生育する光環境に影響を受け、光環境条件の良いセンター構内に植栽した次代木から採穂した接ぎ木の方が、スギ林内に植栽した次代木から採穂した接ぎ木よりも活着率が高い結果となりました。また、次代木自身の成長もセンター構内に植栽した次代木の方が明らかに勝っていました。



要があります。二段林造成後、上層木のうっ閉により、下層木のキハダが枯れこんでいる林分がありますが、光条件の調整と適地植栽さえ行えば、キハダの成長は充分に見込まれ、特用樹としての機能を果たすことが期待されます。  
また、本事業によりキハダ優良品種の選抜と種の確保ができましたが、今後、次代木の成長や樹皮成分検定等を行い、さらなる優良木の選抜を行う必要があると思われれます。平成九年度に接ぎ木により活着した個体についても、山城町の粟山県有林内に植栽しており、今後継続した成長調査を実施していく予定です。  
なお、本年度から新たにケヤキについても優良品種の選抜と増殖方法の検討を行っていく予定です。ケヤキ優良木の推薦等があれば、ご連絡をお願いします。

# 団魂の世代

徳島県林業指導者会

会長 山口昭次郎



戦後のベビーブームに生まれた私達は、団魂の世代と呼ばれています。高校受験を間近に控えたある日、担任の先生が「君達は、大変な星の下に生まれてきたものだ。入試を始め社会人になっても厳しい競争の中で生きてゆく運命にあるんだ。しかし最も多くの仲間がいる事も忘れないでほしい。」と言つて励ましてくれた事が、ついでこの間のことようである。戦後の経済復興と共に成長し、日本経済の支えとして働いてきたが、今、リストラという波にさらされています。そして超高齢化社会をまもなく私達と共に迎えるのです。私達が老人となる頃には、まさに社会のお荷物となるのです。山村では過疎が深刻な問題となつて久しいが私達の地区も例外ではありません。地区の消防団

員が二十数年も前から、毎月の機械器具点検に合わせて、独居老人宅訪問を行い大変喜ばれています。地域ぐるみで過疎と高齢化の問題に取り組んでいます。国においても公的年金制度の見直し等、将来を見越して政策が打ち出されてはいますが――

私達と同じように、日本林業にも、もう一つの団魂の世代が形成されています。戦後、拡大造林されたスギやヒノキです。先祖や先輩達が、将来に豊かな生活を夢みて黙々と植林してきた山々も、価格の低迷や林業労働者不足等により、間伐の遅れや放置された林分が目立ってきています。やれ花粉症だ、谷川の水が減つたという、山崩れが起きるといふ。ダムに土砂が溜まるといふ、山緑にして、

村滅びゆく今、みんな、スギやヒノキが原因だという。これも私達と同じ世の中の厄介者となるのだろうか。

山が死ねば、川や海が死に、最後には、人類が減る！。

住専・金融機関の不良債権、旧国鉄の債務処理等に公的資金の導入が計られているが、林業再生にこそ、公的資金を導入すべきではなからうか。

地球の温暖化や環境破壊が大きな問題となつている今、健全な森林の育成管理こそが地球の未来を守ることであり、二十一世紀は、農業や林業が必ず見直される時代になることを信じている。

さあ、明日も元気で山へ行こう



**田 池**  
「森林・農山村問題を語る」  
**IN 四国大学**

都市で暮らす学生に森林や農山村の現状を知ってもらい、都市と山村とがどのように連携をしていくべきかを話し合おうと、十月十四日に四国大学でフォーラムが開かれました。約百人の学生が参加し、山村地域で暮らす五人の提言者から、森林・林業の現状や、都市から山に移り住んでの体験などの話がありました。

意見交換会では、「山で暮らしていて不便と感じることは」などの質問が出され、山村で暮らす人は、「あると便利なものは都会にあるけど、絶対に必要なものは山村にもある」と訴えました。  
マスメディアからの一方的な情

報でなく、山村の人たちから現状を聞き、さらに意見を交わすという今回のフォーラムは、学生の皆さんにとって貴重な体験になったのではないのでしょうか。

徳島農林事務所 杉本真紀



**脇 町**  
**ダム湖周辺**  
**森林整備の実施**

去る平成十年九月二十九日、阿南管内の林業経営士、青年林業士等で組織する阿南地区林業指導者会が那賀川流域のダム湖周辺の森林整備を行いました。  
この取り組みは地域にあるダム

湖周辺の森林を対象に、天然林改良、広葉樹植栽、除間伐などにより、水源林整備と景観向上を図ることを目的としています。

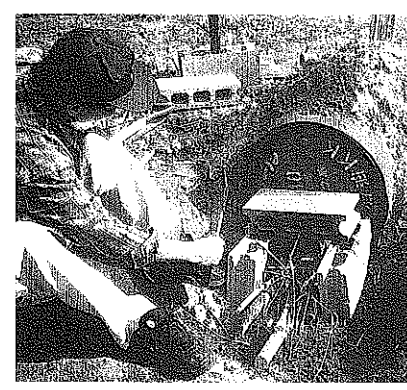
今回の対象森林は、上那賀町大戸の国道一九五号線沿いの天然広葉樹林で、かすら・つるの除去、枯死木の伐倒・整理を実施しました。当日は秋雨前線停滞のため、あいにく雨天でしたが、参加者は雨二モマケズ・・頑張りました。今年度の予定としては後2回実施する計画で、三月には力エデ等の広葉樹を植栽し、美しい森林づくりを目指したいと考えています。

阿南農林事務所 篠原俊樹



**徳 島**  
**ドラムカンによる**  
**竹炭教室の開催**

去る十一月一日に川島町の上桜公園で、二千人を集めてのふるさと祭りが行われました。林務課でも川島林業推進協議会として参加し、誰でもやろうと思えば手軽にやれるドラムカンを使った炭焼き教室の実演と竹炭の配布を行い炭の効用についても普及啓蒙しました。燃焼時間(約五時間)と原料の集め易さから竹炭をつくりました。ドラムカンは片方を全部くり抜き、もう片方から煙突を出しました。着火して五時間ほどの燃焼で冷却後に取り出すと容積で1/3になっ



ていましたが、まずまずの出来映えでした。見物人の中には、炭焼きの経験がある人もいて色々なアドバイスをしてくれる人もいました。なお、竹酢液も同時に2L程採取できました。やってみたい人は、教えてください。

川島農林事務所 濱田浩二

## 川島

### 大谷小学校林業教室

椎茸のおいしさを知ろう！

脇町の大谷小学校(全校生徒十一名)では、今年の一月にコナラの原木約三十本に植菌をし、校庭横の木陰に原木を並べていたところ順調に櫛化が進みました。

十月下旬に学校のプールに櫛木を一昼夜浸け、十月十五日の日はこの日には顔の大ききほどの立派なしいたけがなりました。子どもたちは椎茸生産者の手



収穫を終えた後は、炭火で椎茸を焼き、すだち醤油や塩で味付けをしました。

もぎたての椎茸は新鮮そのもので、あつあつの焼き椎茸をおいしく食べました。

大谷小学校では、これからも林業教室等とおして自然教育や環境教育を行っていき、子どもに残る教育を実施していきたいと考えています。

脇町農林事務所 助定 竜太郎

## 女性林研

### フォレストレディーの会 交流研修会を開催

女性林業グループの活動促進とグループ間の情報交換を通じお互いの連帯と資質の向上を図る目的で、昨年の十月二三日から二四日にか

けて、徳島市の眉山山頂にある「かんぼの宿徳島」を中心にして県内の八グループ、三十一人が参加し開催されました。



二三日は、上板町に新しくオープンしている「枝の館」に集合し開会式の後、全

員がハンカチを使用して藍染めを体験するとともに館内を見学した。

その後、鳴門市に移動して、二〇〇年の伝統ある松浦酒造を視察、伝統技術の確立に対する話に参加者は感銘していた。



夜は、かんぼの宿に移って、お酒を酌み交わしながら楽しく交流を重ね、徳島の夜景を見ながらの思

演をして頂き、健康と地域の産物の生かし方について学び、活発な意見交換を実施して、又の再会を約束しながら二日間の交流会を閉会した。

## 行事案内

一月二十日(二十一日)にかけて、徳島県林業総合技術センターにおいて次表の会が開催されます。多くの人の参加をお願いします。

日時	行事内容
(20日) 10:00~	林業試験研究業務報告会(4課題)
13:00~	木炭の水質浄化及び湿度調節試験報告会
14:00~	「林業講演会」 木炭の現状と将来性について 講師 杉浦銀治(炭焼きの会副会長)
(21日) 10:00~	林業リーダー研修会 海外研修報告等
11:00~	林業グループ活動実演発表会
13:00~	「研修会」…情報交換 木造住宅の実状と木材の使用について